

とろ火恋挽歌

鶴崎 ひろし

連れて逃げてと 泣かれた夜は
とろ火とろとろ 野火の風
涙で奏でる 恋詩ひとつ
淡い帳の 底から湧いた
とろ火哀しや 恋挽歌

茗荷畑は おまえの匂い
とろ火とろとろ 沁みる夜
着物姿が 妖しく浮かぶ
今宵十六夜 真っ赤な月に
とろ火燃えるか 恋挽歌

季節の・・・